

IAUD・UD マトリックスを Web 化、UD 開発者をいつでもどこでもサポート！ IAUD・UD マトリックス Web 版の活用について

IAUD 標準化研究ワーキンググループ

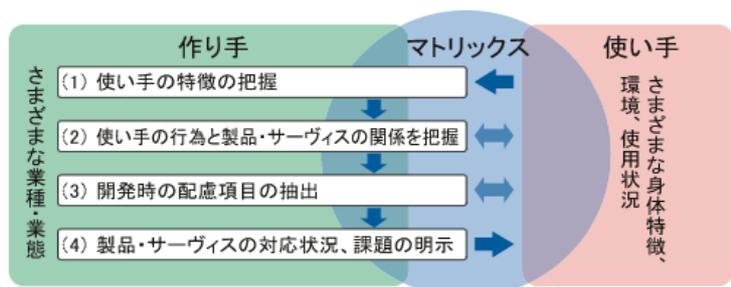
標準化研究ワーキンググループ(WG)では、UD 開発に標準的に利用できるツールとして、「IAUD・UD マトリックス」およびその周辺ツールである「ユーザー情報集」と「事例集」の研究と作成に取り組んできました。この度、UD 開発に関わる幅広い方々に、より手軽に活用していただくため、これまでのエクセルシートに加え、「ユーザー情報集」と「事例集」を Web 化しました。

ここではその考え方や活用の仕方などを簡単にご紹介します。



■利用シーンと課題

IAUD・UD マトリックスの利用シーンとしては「UD の開発」と「UD 対応状態の明示」という 2 つの場面を想定し、右図のような使い手と作り手や製品などを提供する者が関わる 4 つのフェイズで捉えています。各フェイズにおいて UD マトリックスの考え方は大変有効ですが、UD マトリックスに含まれる



ユーザー（使い手）は大変幅広く、ユーザーごとの情報も膨大なものとなるため、UD マトリックスの利用者はケースに応じて対象とするユーザーを絞り込むか、タスクや使い方を限定するなどのカスタマイズが実用上必要とされてきます。

エクセルシートによる IAUD・UD マトリックスは主にそのことを考慮し、大きな表で全体像を見ながらエクセルの機能を利用して表の一部を折り畳んだりタスクを追加できるようにしました。その結果を評価したところ、もっとコンパクトに携帯し手軽に使用したい、どんな UD 対応手法が望まれるかヒントになる事例紹介があると良い、などの意見があったため、具体的な事例をビジュアル的にも見やすくまとめた「事例集」と、現場でより手軽に活用するため、エクセルシートをユーザーごとに切り分けてカードにし、ポケットファイルでまとめた「カード式ユーザー情報集・事例集」も試作しました（右写真）。



これらの形式でもツールとしては UD 開発のプロセスをある程度理解していれば、使用には十分便利なのですが、例えばものづくりの現場、デザイン部門、マーケティング部門などが製販一体となって情報共有し UD に取り組んでいくためには、ツールとして誰でも、いつでも、どこでも手軽に利用できるよう、さらに分かりやすくする工夫が必要と考えました。

■「ユーザー情報集」と「事例集」の Web 化

そこで 2008 年度の活動として「事例集」に掲載する事例の収集や「カード式ユーザー情報集・事例集」の作成につづいて取り組んだのが、これらのツールの Web 化でした。WG でエクセルシートやカード式の長所・短所をまとめ、より使いやすくするためのポイントを整理しました。Web 化することの大きなメリットは見たいユーザー情報や事例をメニューで簡単に選択できる点と、ユーザー情報と事例を自由に行ったり来たりできる点が挙げられます。これらの長所を最大限に活かすことを念頭において、具体的には Web デザインに詳しいメンバーを中心にサブ WG を設け、画面遷移や画面デザインのアイデアを検討し、全体会議で確認するという進め方をしました。実際の Web 制作や画面デザインについては外部の Web 制作会社に発注しご協力をいただきました。

<画面デザインの考え方と操作方法>

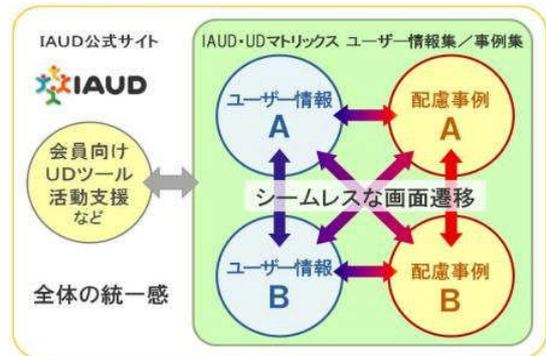
今回の Web 版の一番のねらいは「ユーザー情報集」と「事例集」という 2 種類の情報を Web の特性を生かして見たい情報をシームレスに行き来し、閲覧できるようにすることです。そのため、画面遷移やメニューの考え方についてはそのことを第一優先してデザインを進めました。また、将来的には IAUD 会員だけでなく、一般公開することを前提としているので、UD ツールとして誰でも使いやすく、マニュアルが特になくても欲しい情報にたどりつけるよう分かりやすくすることを心がけ、ビジュアル表現も見やすくシンプルなデザインを目指しました。また、IAUD 公式サイト以外のページとも違和感のないデザインとして、会員活動支援のページと合わせて、手軽に使っていただけることも考慮しました。

トップ画面のデザインについては、何種類かの案の中から WG で検討した結果、右の案となりました。ユーザー情報の大分類を大きく表示し、事例集のインデックス画面へのリンクも同様のサイズで大きく表示しました。

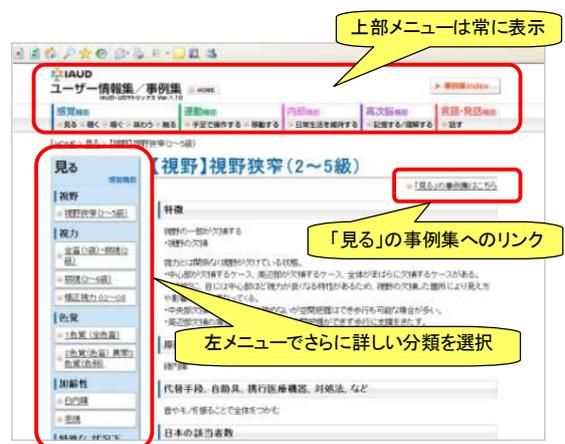
ここからは実際の操作の流れに沿って説明していきます。見たいユーザー情報は大分類の枠内の「見る」、「聴く」などのボタンから選択します。

例えば感覚機能から「見る」のボタンを選択すると右下のような画面が表示されます。画面上部の IAUD ロゴおよび「ユーザー情報集／事例集」のタイトルとそのすぐ下のメニューの帯は常に表示され、どのページに移ってもトップページと同様のメニュー選択の機能が保たれるようにしています（詳細は後述）。

「見る」の画面では左側に「視野」から「特殊な状況下」まで、さらに詳しい分類のメニューボタンが表示され、選択するとユーザー情報の詳細が表示されます。ユーザー情報の内容は「特徴」、「原因となる主な疾病」、「代替手段、自助具、携行医療機器、対処法、など」、「一般的な配慮方法」の 4 項目ですが、統計数字や人口比率の分かっている項目については「日本の該当者数」についての情報が表示されます。



デザインコンセプト



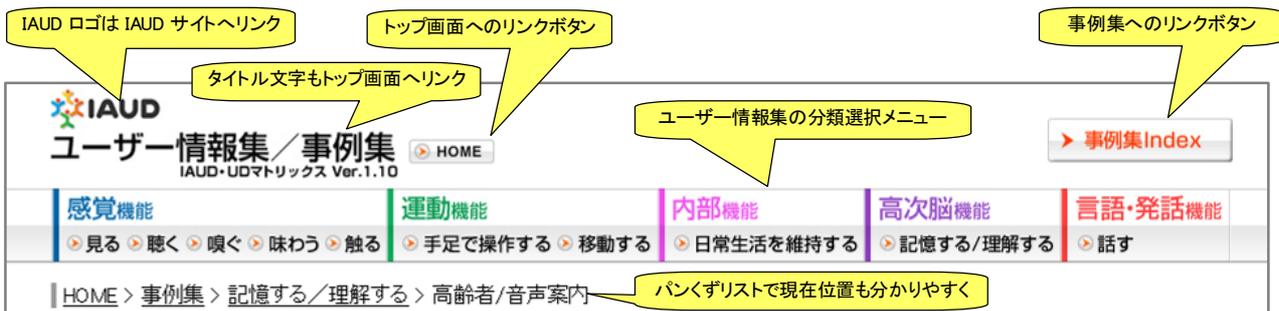
また、すべてのユーザー情報からは対応する事例集へリンクされているため、実際の商品での対応例や配慮の具体例を参照することができます。事例集へのリンクを選択すると右のように事例集の Index と該当する分類の事例写真のサムネイルが表示されます。現時点では事例集の数はさほど多くないため、事例集 Index はユーザー情報集の 2 階層目までと同じメニュー構成となっています。

他のユーザーの事例を見たい場合は、ユーザー情報集のページに戻らなくても事例集 Index から直接選択することができます。例えば、事例集 Index の高次脳機能から「記憶する／理解する」のボタンを選択すると、右のように該当する事例のサムネイル画面が表示されます。

さらにサムネイル画面から見たい事例を選択するとイメージ画像が拡大され、配慮の対象／内容とその詳細説明が表示されます。また、上の階層と同じく、このページからも対応するユーザー情報を直接見に行くことができます。

操作の概要イメージは以上ですが、最後に上部メニューの機能について説明します。この部分はユーザー情報集、事例集のどの画面でも常に表示されており、下図のとおり、この部分だけで基本的な操作ができるよう考慮しました。帯の中に配置したユーザー情報集の分類選択メニューと、画面右上に表示される「事例集 Index」のボタンで見たい情報を選択できる他、現在位置を直感的に理解するため、パンくずリストも表示されます。左上部の「HOME」ボタンと「ユーザー情報集／事例集」の文字は全体のトップ画面へリンクされています。また IAUD ログをクリックすると IAUD 公式サイトが別ウィンドウで開きます。

このように全体として見やすさや使いやすさを考慮して制作しましたが、アクセシビリティに対応したデータの付加の問題や、事例写真のサイズ・解像度の不統一など、時間とコストの関係で対応しきれなかった課題も残されています。これらの課題については、常にユーザー情報を最新の状態にメンテナンスし事例も充実させていくという基本的なテーマと合わせて、今後、継続して取り組んでいきたいと考えています。



■利用シーンによるツールの使い分け

IAUD・UD マトリックスにはエクセルシート形式、カード式ユーザー情報集／事例集、そして今回の Web 版のユーザー情報集／事例集と 3 種類のタイプがある訳ですが、それぞれ一長一短があります。例えば Web 版はネットワークを通してどこでも見られるという大きな長がありますが、逆にパソコンなどの情報機器がないと見られないため使用環境が限定されるなどです。それぞれの特性を考慮し、開発対象や活用のフェイズ、使用環境や目的などの利用シーン、使用者のスキルや職種などにより、使いやすいタイプをその長を生かした使い方をするのが良いと考えます。例えば、ユーザーを幅広く網羅的に見る場合はエクセルシート形式、現場へ持ち出して常に手許において見たい場合はカード式、社内の幅広い部門で情報共有するためには Web 版、などの使い分けが考えられます。下の表は参考として 3 種類のタイプの特性をまとめてみたものです。

また、IAUD・UD マトリックスは設計・製造の現場だけでなく、社内教育やデザインを学ぶ学生など教育の場でもユーザーを理解するツールとしての活用が考えられます。その場合でも、3 タイプの特性を生かした利用の仕方が考えられます。

比較内容 ツール名	ユーザー全体像の把握しやすさ	開発対象・目的に応じたカスタマイズ	ツールとしての手軽さ、携帯性	ユーザー情報と事例の関連づけ	複数人数での共有、情報管理の容易性	求める情報へのたどり着きやすさ	特筆事項
エクセルシート形式 IAUD・UD マトリックス	◎	◎	○	△	○	○	他の UD マトリックスツールのベースとなるユーザー情報集
カード式 ユーザー情報集／事例集	△	○	◎	◎	△	○	印刷物として扱いやすいため、手許に手軽に置いて現場へも持ち込みやすい
Web版 ユーザー情報集／事例集	○	△	△	◎	◎	◎	ネットワークを介し複数人数での情報共有やデータ更新などの管理が容易

◎:非常に適している ○:適している △:適さない面もある

■今後の課題：活用事例のフィードバックと改善のしくみづくり

これらのツールを現場で実際に使用し UD 実践に役立てていくには、さらにユーザー情報を充実させ、使い勝手の改善を重ねて完成度を高めていく必要があります。そのためにはツール自体を眺めているだけでは不十分で、実際の製品など具体的なケースに適用してその結果をフィードバックしてゆくプロセスが必要と考えています。WG でも IAUD・UD マトリックス自体の評価プロセスとして、自動車や各種家電製品など、実際の製品評価でその実効性の検証を行いました。さらに幅広い会員の皆さまにもさまざまな具体的なケースで使用していただき、実績を重ねることで改善につなげてゆくことが重要と考えています。そのためには皆さんの情報をフィードバックする体制やしくみづくりも今後の課題と考えています。ぜひ、皆さまのご協力をお願いいたします。

冒頭でご紹介した「カード式ユーザー情報集／事例集」については、出版事業委員会の本年度の活動の一環として、メディアの UD プロジェクトとも連携し、印刷物としての UD 的配慮やメディアとしての使い勝手の改善も加えながら、出版に向けて検討を進めています。

これらのツールの使い方のワークショップや、実際の製品への適用支援などについても、WG の今後の活動として検討してゆきたいと思っておりますので、皆さまのご意見・ご要望などもぜひ、お聞かせください。

